

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

6月下旬、千葉県東方沖を震源地とする最大震度5弱の地震、この1週間に発生した地震は26回、震度3以上も3回発生した。6月

初旬、立命館大学環太平洋文明研究センター特任教授高橋学さんは、三浦市や横須賀市で発生した異臭について「巨大地震の前兆の可能性がある」と警鐘を鳴らした。「来る大地震」を予測する教授は、2016年に阿蘇山が36年ぶりの爆発的噴火を、1年前から九州地方での火山活動を察知、メディアで警告を発し続けた。1995年の阪神・淡路大震災が発生する数カ月前にも、神戸市東部で異臭が確認され、「匂い」と巨大地震の因果関係に注目、「南海トラフ地震」の可能性を指摘

している。6月下旬には、長崎県で50年に一度の記録的な大雨。中国重慶の水害では、中国当局は80年に一度の規模の大洪水だと警告。重慶を流れる長江の下流にある世界最大の水力発電ダム「三峡ダム」は強度も心配されている。既に中国中央气象台は6月に入って連続23日暴雨警報を発令、貴州・広西・湖南・江西などで大規模洪水。中国では今年の洪水被害の被災都市はすでに26の省、自治区、直轄市におよび、被災者数は

1122万人、長江沿いの湖北省の680のダム湖、安徽省の299のダム湖は制限水位を超えており、水位調整の対応も洪水防止の役に立っておらず、六安市などは、村ごと水に沈んでいる所が幾つ

アフリカのケニアではバッタ大量発生第2波で国連食糧農業機関は、数千億匹のバッタによって最大2500万人が食料不足に見舞われるとした。また南米アルゼンチンの政府機関は、4000万匹のバッタの大群による被害で、1日で牛2000頭分、3万5000人分の食料に相当する農産物を食い荒らし、今後周辺国にも広がる警戒感が広がっている。世界中での新型コロナウイルスによる農業従事者の確保が難航している関係で、農作物の

生育期間への対応が困難な現場も多く、経済活動の全面再開も不明確で収穫も見通せずにいる。今後世界での穀物相場の高騰、農産物

価格の高騰も予想されているので、注意が必要だ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)

世界が直面する災害 現状を知る事が大切だ

新型コロナウイルスの影響で野菜栽培に取り組む現場が多く見受けられた

